

# 四国横断自動車道 吉野川河口域の環境保全に関する検討会 第一回検討会

## 【検討会の概要】

西日本高速道路株式会社

四 国 支 社

平成25年8月22日

みち、ひと…未来へ。



# ■ 1. 検討会の概要

1. 名 称 : 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
2. 目 的 : NEXCO西日本の『吉野川渡河部の環境保全に関する基本的な考え方』に基づき、四国横断自動車道の整備にあたって、専門家から必要な指導、助言を得ながら、吉野川渡河部の環境保全に関する検討を行うことを目的とする。

## ■ 吉野川渡河部の環境保全に関する基本的な考え方

- ・「吉野川渡河部」は、多種多様な希少生物が生息・生育し、渡り鳥のシギ・チドリ類が飛来する湿地を有する吉野川の河口域に位置することから、環境保全の観点において重要な場所であると認識しています。
- ・他事業における環境保全対策を参考にし、関係機関と調整を図りながら対策を検討します。
- ・対策検討にあたっては、専門家や関係者のご意見を十分に伺います。
- ・吉野川渡河部の環境保全と事業の両立に向け全力で取り組みます。

3. 委 員 等 : 生物、生態、自然環境、橋梁等に関する専門家及び関係機関のメンバーにより構成。
4. 検 討 期 間 : 平成25年度～ 工事完成後2年間程度を想定
5. 対 象 範 囲 : 吉野川河口部における、①道路計画線付近 及び ②環境の保全に取り組む一定の範囲

## ■ 2. 四国横断自動車道(徳島東IC～徳島JCT) 航空写真



# 3. 概略スケジュール



31

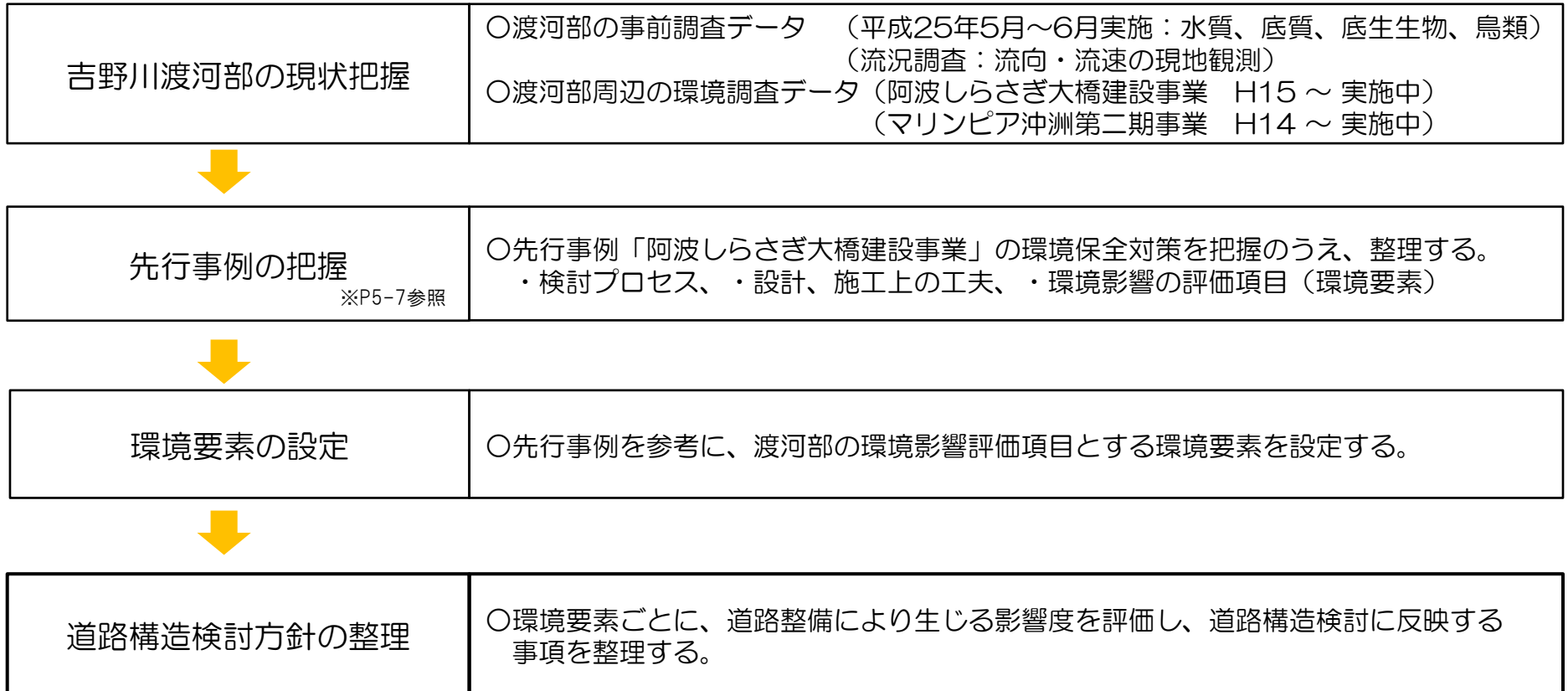
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	開通以降	
四国横断自動車道 吉野川渡河部の 環境保全に関する 検討会	環境保全対策の検討	環境モニタリング調査 (調査項目、方法等の検討、事前調査、工事中の調査、事後調査)								
(徳島東IC(徳島JCT)) 四国横断自動車道事業	調査・基本設計	詳細設計						開通予定 31年度	道路維持管理	
	河川・港湾・他関係機関 協議									
			工事施工							

# 4. 検討の進め方 ～平成25年度スケジュール～

環境保全対策の検討	検討会 設立	H25年8月	<b>第1回検討会</b>	・検討会の目的、規約、検討項目、進め方、メンバー
	H25年9月	<b>第1回環境部会</b>	・現状把握、環境保全に配慮すべき事項および検討項目の整理 →p.5-5参照	
		<b>第1回橋梁部会</b>	・環境保全に配慮した道路構造の検討 →p.5-6参照	
		<b>第2回環境部会</b>	・環境保全対策の検討及びその評価	
	H25年12月	<b>第2回検討会</b>	・環境保全対策の策定(原案) ・環境保全対策(原案)に対する一般意見聴取の実施について	
		<b>第3回環境部会</b>	・一般意見の評価	
		<b>第2回橋梁部会</b>	・一般意見の評価	
	H26年3月	<b>第3回検討会</b>	・環境保全対策の決定 ・H26年度の予定 ⇒環境モニタリング調査の項目・方法等の検討、事前調査の実施	

# 4-1. 第1回環境部会(9月頃予定)の進め方

吉野川渡河部の「現状把握、環境保全に配慮すべき事項および検討項目の整理」を行い、道路構造の検討方針を整理する。



第1回橋梁部会へ

## ■ 4-2. 第1回橋梁部会(10月頃予定)の進め方

環境部会から提示された「道路構造検討方針」を踏まえ、渡河部の道路構造について橋梁形式及び施工計画の検討を行う。

橋梁形式の検討については、河口部といった特殊な環境であることを踏まえ、基礎構造、下部構造及び上部構造の各要素について、施工性、経済性、耐久性、維持管理、景観を考慮のうえ、環境保全に対し望ましいと判断される橋梁形式案を選定する。

<p>吉野川河口部における 外的要因の整理 (環境保全以外)</p>	<p>○河口部といった特殊な環境であることを踏まえ、<b>橋梁計画にあたって考慮する条件</b>を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川内施工、施工期間</li> <li>・ライフサイクルコストを考慮した経済性、耐久性、維持管理</li> <li>・景観性 など</li> </ul>
--	---



<p>環境保全に対し望ましい 道路構造の検討</p>	<p>○外的要因を踏まえ、<b>環境保全に対し望ましい橋梁形式を複数案から検討</b>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形改変の影響が少ない橋脚配置 (流況解析にて検討)</li> <li>・工事に伴う地形改変が少ない施工計画</li> <li>・空間障害が少ない上部工形式 など</li> </ul>
--------------------------------	---



・ **道路構造 (橋梁形式) (案) の選定**



**第2回環境部会へ**

# 【参考】 先行事例「検討プロセスと環境要素」



・ 先行事例の阿波しらすぎ大橋建設事業の「検討プロセス」と「環境要素」を下記に示す。

## ■ 先行事例の検討プロセス

### 〔計画段階〕

- ①橋梁形式の検討  
⇒干潟部への橋脚設置を避けた吊構造のケーブルイグレット工法を採用。
- ②環境要素の設定（右表）  
⇒環境保全に配慮すべき環境要素の設定。
- ③環境要素に対する予測及び検討、評価  
⇒施工段階は環境モニタリング調査にて確認。



環境モニタリング調査を実施

### 〔施工段階〕

- ④工事中の公害防止のため調査した項目  
⇒騒音、振動、水質
- ⑤橋梁整備による影響評価のため調査した項目  
⇒地形及び底質、植物・動物・生態系



橋梁整備の影響評価を実施

### 〔施工完了後〕

- ⑥下部工（橋脚）の影響評価
- ⑦上部工の影響評価

## ■ 先行事例の環境要素

環境要素	行為・要因		
	工事の実施	橋梁の存在	道路の供用
大気質			○
騒音	○		○
振動	○		○
水質	○		
地形及び底質 (河口干潟)		○	
日照障害		○	
植物、動物 生態系	○	○	○
景観		○	
人と自然とのふれあい活動の場	○	○	○
道路照明			○
風害		○	